【消費者モニター】

【地域振興作物について】

- 地域振興作物の購入状況は、40歳以上の階層で「購入したことがある」の割合は5割を超えている。また、購入希望価格については、1割以上割高でも購入する割合が4割強となっている

図7　年齢別にみた「地域振興作物」の購入状況

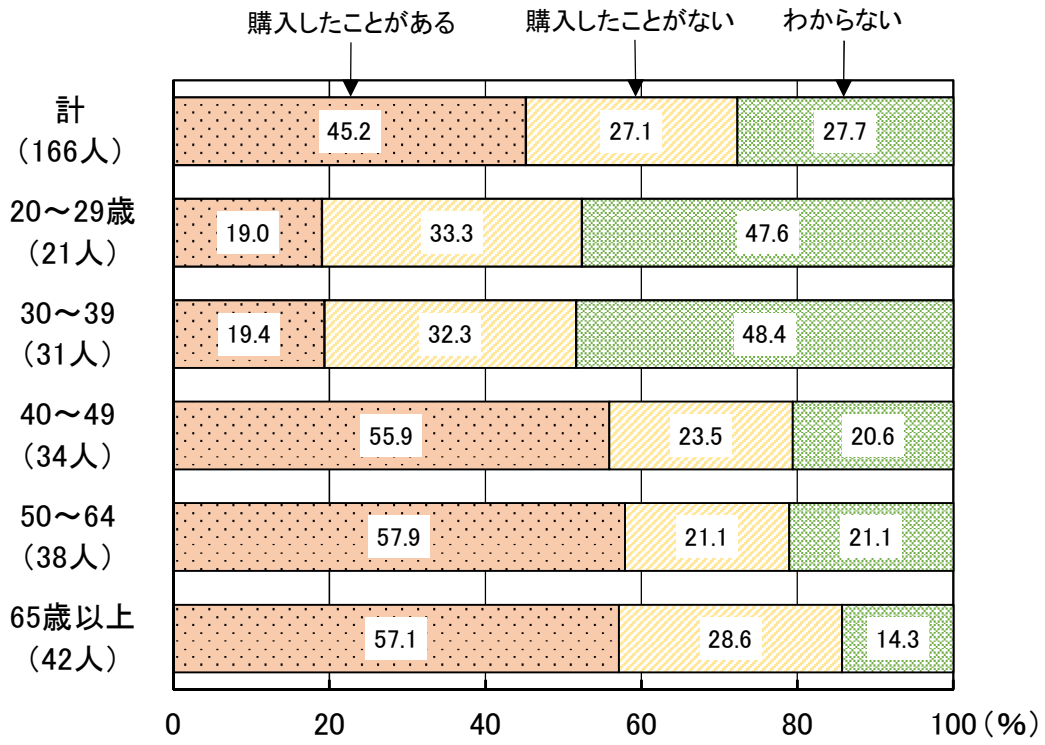
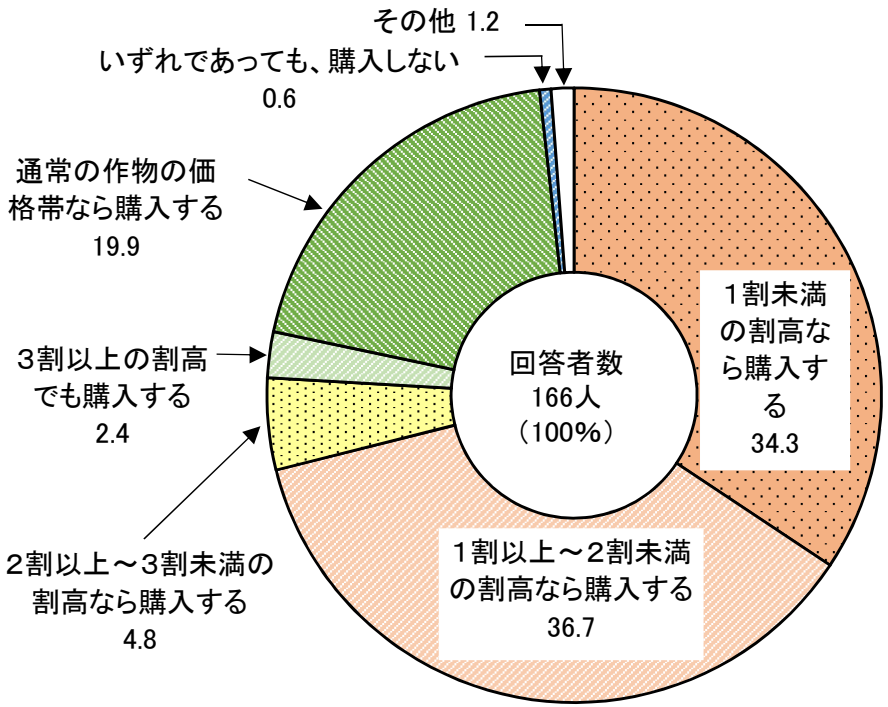


図8　「地域振興作物」の購入希望価格



《ご意見・アイディア》

- スーパー等でもっと分かりやすく表示
- 料理のレシピ等を紹介するなど、情報発信・周知
- ブランド名やその文字や色を統一して統一された広告や宣伝を行う。品質基準などを統一し、高品質を維持

Ⅴ　機能性等に着目した地域振興作物導入の展開

- 機能性等に着目した地域振興作物の導入により、所得向上に取り組む地域の参考となることを目的
- 管内における先行事例の調査結果から、4つに区分
- それぞれのポイント、留意点（Q＆A）、先行事例の取組を記載
- 取組の順序・内容は、各地域の実情を踏まえて関係者で十分に検討することが重要

1. 特色ある農作物の導入

- マーケットインの視点
- 需要や販路の可能性
- 生産条件や地域課題

2. 生産の安定化と品質向上

- 生産の拡大・安定化や品質の向上・均一化
- 生産性の向上や農地の集積・集約化
- GAPの取組

3. 地域内外との連携

- 地域ぐるみでの体制構築
- 異業種や民間事業者も含めた体制整備
- 試験研究機関・大学等との連携

4. 更なる付加価値向上と販路拡大

- 次の発展プロセスへの展開
- 更なる付加価値の向上
- 販路の更なる拡大
- ブランド化・地理的表示（GI）保護制度、地域団体商標制度

1　特色ある農作物の導入

ポイント

- <u>マーケットインの視点で作物を評価</u>
  - ✓ 健康志向や伝統野菜等への評価の高まりの中で、作物の機能性や地域に根ざした独自性により差別化
    - 健康志向　→　機能性農作物、栄養の豊富な農作物
    - こだわり・本物志向　→　地域特有の作物、伝統的な栽培方法
  - ✓ 新規作物にこだわらず、まずは既存作物の再評価が重要

- <u>需要や販路の可能性も考慮して検討（特に新規作物）</u>
  - ✓ 実需者との連携も効果的

- <u>生産条件や地域課題も考慮して検討することが重要</u>
  - ✓ 生産条件の不利性を、創意工夫によって特色として活かすことも可能
  - ✓ 高齢化の進行や鳥獣被害など、地域の課題と消費者ニーズをうまくマッチングしている例もみられる

Q&A

Question	Answer
◆ 新規作物の導入といってもなかなか難しいのですが。	• 新規作物でなくても、機能性や地域特有の特長を持っている作物があるはずです。消費者ニーズを踏まえ、既存作物にどのような強みがあるのか、再評価から始めてみましょう。
◆ 高齢化により重量のあるものや手間のかかる作物は作るのが難しくなっています。	• 先行事例では、手間のかかるシシトウから省力化でき単価の安定した甘長とうがらしへの転換を図った事例もあります。 • これまでに培った技術を活かせる作物で軽労化・省力化できるものがないか普及指導センターに相談するなどしてみましょう。
◆ 鳥獣被害がひどいので、適当な作物が見つからない。	• 鳥獣害については、各市町村に鳥獣被害対策協議会が設置されているので、まずは協議会事務局に相談してみてください。 • 鳥獣被害の少ない作物として、香酸柑橘のじゃぼんや薬用作物などを導入した事例があります。

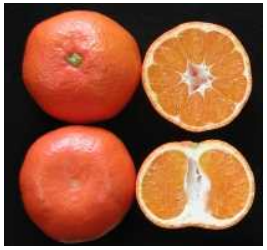
管内の事例から

新たに開発された作物等の導入

- 県が育種したうちの数品種の中から、消費者ニーズに合いそうな品種を選択して取組を進めた（山口県・大島郡・せとみ）
- 生産者が偶然発見した、うんしゅうみかんの枝変わりによる濃紅色に着目（香川県・小原紅早生）
- ビタミン、ミネラルが豊富で消費が伸びているアボカドに着目（愛媛県・松山市・アボカド）
- 世界最大級の大きさと黄金色の果肉が特徴で、一般品種と比較してビタミンCを約3倍含有するキウイフルーツに着目（香川県・さぬきゴールド）

せとみ

アボカド



小原紅早生

さぬきゴールド

既存作物の再評価

- 地域資源である温泉と、昔から栽培されていた黒食材の美容効果に着目（島根県・浜田市・黒米、黒大豆）
- 100年以上前に九州から苗を持ち帰り栽培していたものを復活（広島県・東広島市安芸津町・じゃぼん）
- 一村一品運動の振興に携わる中で高い評価と人気のある作物を選択（山口県・周南市・じねんじょう）
- そばを活用し、古くから地域に根付いていた食文化の再興（徳島県・にし阿波地域・そば）
- 伝統野菜作物に新たに名前を付け復活（高知県・高知市・伝統野菜）

黒米・黒大豆

じゃぼん

じねんじょう

そば米雑炊

牧野野菜の種子生産

地域の諸課題に対する対応

- 香酸柑橘のため鳥獣被害が少ないことに着目（広島県・東広島市安芸津町・じゃぼん）
- 現行栽培作物より省力化で単価の安定した作物の導入による高齢者対応（高知県・高岡郡・甘長トウガラシ）

香酸柑橘のため
鳥獣被害が少ない

じゃぼん

シシトウガラシ

省力的に栽培できる
作物への転換

甘長トウガラシ

地域独特の栽培条件の活用

- 過酷な環境条件（園地の最高温度60℃）の砂丘地に適応した作物の振興（鳥取県・鳥取市福部町・らっきょう）
- 中山間の高い標高による冷涼、昼夜の寒暖差、霧の発生等の条件下で自生していたヤマブドウの栽培化（岡山県・真庭市・ヤマブドウ）
- 温暖化に伴い熱帯果樹を沿岸部の露地で栽培（愛媛県・松山市・アボカド）
- 谷が多く、水路及びほ場が隔離されていることを逆手に取り、一般品種との交配やコンタミの懸念のある特定品種を栽培（島根県・浜田市・黒米、黒大豆）
- 廃川地跡の川砂が堆積した砂壌土を活用（岡山県・倉敷市・連島ごぼう）

らっきょう畑

標高500mのヤマブドウ畑

川砂が堆積した砂壌土

２　生産の安定化と品質向上

ポイント

- 地域ぐるみで生産の拡大・安定化や品質の向上・均一化に取り組むことが重要
  - ✓ 農業者への技術普及と全体の技術の底上げのため、勉強会の開催など、地域ぐるみで技術普及に取り組む
  - ✓ 新規に取り組むなどの場合、普及センターの支援・指導のもと、栽培マニュアル、栽培暦の作成や実証ほ・展示ほの設置も効果的

- 産地化を進めていくためには、生産性の向上や農地の集積・集約化等が重要
  - ✓ 必要に応じ導入作物に即した基盤整備や機械の導入を検討
  - ✓ 土地利用作物はもとより果樹、野菜も含めて農地中間管理事業を積極的に活用し、農地集積・集約化を進めることが重要
  - ✓ 耕作放棄地や遊休地の解消の視点も入れて、農地の有効利用を検討
  - ✓ 優良系統品種の選抜による収量増・品質向上の取組事例もみられる

- 「GAP（農業生産工程管理）」の取組
  - ✓ 農業における、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組（GAP）は、効率的で無駄のない営農の観点からも効果的
  - ✓ まずは、「GAPをする」の取組から地域で協力して進めていく

Q&A

Question	Answer
◆ 山間部の水田で排水が悪いなど、基盤の条件が悪いので、検討している作物の導入が難しいのですが。	• 農地耕作条件整備事業や農地中間管理機構関連農地整備事業など、地域特性に応じて活用可能な様々な事業が近年創設されています。 • 中山間地域でも使いやすい要件設定もされている事業もあるので、まずは市町村や県に相談してみましょう。
◆ 高齢農家が多いため、GAPに取り組むことは費用の面も含めて難しいのではないですか。	• 各県でGAP指導員の育成や指導体制の整備が進められていますので、普及指導センターに相談してみてください。 • まずは「GAPをする」からはじめてみましょう。将来的には「GAP認証をとる」も視野に取組を進めていきましょう。 • 団体として取り組めば、認証取得費用の節減も可能です。 • 平均年齢70代の産地がJGAPの団体認証を取得した事例もあります。

管内の事例から

技術指導・普及

- 生産技術の統一のため指導協議会を組織化（鳥取県・鳥取市福部町・らっきょう）
- 苗の無償提供とほ場の巡回指導（島根県・川本町・エゴマ）
- 普及組織と連携した安定生産技術の普及（岡山県・倉敷市・連島ごぼう）
- 栽培技術指導者の育成（岡山県・真庭市・ヤマブドウ）
- 良品が生産できる栽培方法を確立し、栽培マニュアルをホームページに公表（山口県・周南市・じねんじょう）
- 湿害を解消するため明きょ（溝きり）を施工した展示ほの設置（徳島県・にし阿波地域・そば）
- 定期的に全園地の品質調査を実施し、その結果に基づき営農指導（岡山県・倉敷市・連島ごぼう）
- 芸南果樹研究同志会が育成し、取組農家へ苗木を配布（広島県・東広島市安芸津町・じゃぼん）
- 適期は種、暗きょ排水対策等実施（岡山県・倉敷市・連島ごぼう）

じねんじょう栽培の技術指導

栽培技術の公表（じねんじょう）

現地検討会（甘長トウガラシ）

マニュアルの作成・普及

- 品質統一のため、各生産部会で異なっている栽培技術を統一（鳥取県・鳥取市福部町・らっきょう）
- 大学と連携して栽培マニュアルを作成（岡山県・真庭市・ヤマブドウ）
- 農業者自ら栽培マニュアルを作成し、ホームページに公表（山口県・周南市・じねんじょう）

品種改良

- 県試験場で高収量や早生等の優良系統品種を選抜中
（島根県・川本町・エゴマ）
- 自ら、品種選抜を繰り返し、優良な種芋を産出（山口県・周南市・じねんじょう）

エゴマ

品種選抜による優良品種
（やまいもまつり（有））

導入作物に即した基盤整備

- 過酷な環境の砂丘地で、適応できる作物の生産振興と併せて、基盤整備を整備（鳥取県・鳥取市福部町・らっきょう）

防風林

作業・運搬機械

農地の確保、集約化

- 高齢者の生きがいとなる農産物を選択し、耕作放棄地を解消
（高知県・高知市・伝統野菜）
- 周年供給に向けて栽培面積の拡大のため農地中間管理機構を活用
（広島県・キャベツ）

高知の伝統野菜（田村蕪生産者）

３　地域内外との連携

ポイント

- 地域ぐるみでの体制構築を図り、取組を進めることが効果的
  - ✓ 取組の基本方針などの合意形成、規約や構成員の役割分担の明確化することにより、着実に進める
  - ✓ 取組の広がりとともに連携の輪を広げていくなど無理なく取り組んでいくことが重要

- 異業種や民間事業者も含めた体制整備も重要
  - ✓ ６次産業化による付加価値向上や、農商工連携による相乗効果も念頭に、観光事業者や食品加工業者など民間事業者との連携も効果的

- 試験研究機関・大学等との連携
  - ✓ 取組を進めていく中で、品種改良や生産技術の改善策の検討などが必要となる場合、まずは県の試験場など地元の試験研究機関への相談や連携を検討
  - ✓ 地元の試験研究機関から大学等へ連携の輪を広げていくことも効果的
  - ✓ 機能性の分析・評価にあたって、地元の試験研究機関や大学と連携した例もある
  - ✓ 収穫の効率化のために、農業機械の改良を機械メーカーと連携して行った例もある

Q&A

Question	Answer
◆ 生産量を確保するために機械化が必要ですが、全国的に生産量が少ない作物であるために適当な機械がありません。	• 全国的に生産量が少ない作物の場合、適当な機械が製造されていないなどの状況がありますが、機械メーカーと連携して、収穫機の開発に取り組んでいる事例もあります。 • まずは機械メーカーや試験研究機関に相談してみましょう。
◆ 体制整備って、どこに声をかければいいかわからない。	• 地域農業と密接に関係し、試験研究機関などともつながりのある普及指導センターやJAに相談してみましょう。
◆ 6次産業化や農工商連携をうまく進めるには、どうすればよいですか。	• 6次産業化に取り組む際には、まずは全県に設置している「6次産業化サポートセンター」や農政局に相談してみてください。 • また、6次産業化の事業計画を策定し、六次産業化・地産地消法に基づく「総合化事業計画」として農林水産大臣の認定を受けると、様々な支援が受けられます。売上高が伸びるなどの成果が上がっている事業者の方もたくさんいるので、検討してみてください。 • 農商工連携については、独立行政法人中小企業基盤整備機構や「よろず支援拠点」に相談窓口がありますので、活用してください。

管内の事例から

地域ぐるみ

- 生産組合の代表で構成する生産組合長会（連合会組織）を設置し、意思決定やまとまった活動を実施（鳥取県・鳥取市福部町・らっきょう）
- 栽培・加工・販売・研究の県内関係者からなる組織を設立（島根県・川本町・エゴマ）
- 地域全体で委員会を立ち上げ、地域に里づくりの計画書を策定（島根県・浜田市・黒米、黒大豆）
- 生産者、県、市等からなる推進協議会を設立（広島県・東広島市安芸津町・じゃぼん）
- 西日本農研機構と協力し、コンソーシアム事業によるマルドリ、ハウス等による栽培技術を実証（山口県・大島郡・せとみ）
- 広域の市町が連携し、地域と行政が一体となり、「産地づくり」を合い言葉に市町単位で生産振興（徳島県・にし阿波地域・そば）
- 市の農業指導センターが事務局となり協議会を設立（愛媛県・松山市・アボカド）

地域でワークショップを開催
（湯気の里づくり委員会）

そらのそば協力店の登録推進
（そらのそばづくり協議会）

民間・異業種

- 観光資源である温泉と連携（島根県・浜田市・黒米、黒大豆）
- 近隣ホテルと連携し、伝統野菜料理の開発及び提供（高知県・高知市・伝統野菜）

温泉のある近隣ホテルと提携し、黒米・黒大豆を使った料理を提供

近隣ホテルと提携し、伝統野菜料理を提供

機械の改良

- 耕耘、掘取、防除の機械化により労力軽減、出荷調製作業、植え付け作業の機械化を研究
（鳥取県・鳥取市福部町・らっきょう）
- 現行の機械収穫では、収量が手刈りの約半分となるため機械の改良を検討（島根県・川本町・エゴマ）

掘り取り作業（鳥取県東部）

手作りの脱穀機
（川本町エゴマの会）

試験研究機関

- 機能性成分を利用した食材開発として、試験研究機関、大学等との共同研究を実施
（愛媛県・愛南町、宇和島市・河内晩柑）

精密分析機器を用いて機能性成分を分析

4　更なる付加価値向上と販路拡大

ポイント

- 次の発展プロセスへの展開
  - ✓ 特色ある農作物の導入が定着した段階で、次のステップに向けて更なる付加価値向上や販路拡大を目指すことも検討

- 新商品開発など更なる付加価値の向上のための取組
  - ✓ 消費者の嗜好や健康志向の高まりのなか、消費者ニーズに即した商品開発
  - ✓ 食品企業や高校・大学との連携により、商品やレシピを開発し、販売戦略に活用することも効果的
  - ✓ 対面販売等による消費者ニーズの把握も重要

- 販路の更なる拡大のための取組
  - ✓ 契約栽培等の取引条件への対応
  - ✓ 国際水準のGAP認証の取得も検討

- 地域振興作物のブランド化や表示制度の積極的な活用が重要
  - ✓ おいしくて、さらに品質を向上していくことが重要
  - ✓ 関係機関との連携により、機能性表示食品制度、栄養機能食品制度を活用した機能性表示の検討
  - ✓ 地理的表示（GI）保護制度や地域団体商標制度の活用による地域振興作物のブランド化の検討

Q&A

Question	Answer
◆ 機能性表示食品として販売することは、難しいですか。	• 機能性表示食品は、研究レビューを活用する等により生鮮食品も登録が可能です。大学や試験研究機関へ相談されてはいかがでしょうか。 • 栄養機能表示なども併せて検討してみてはどうでしょう。
◆ 地理的表示保護制度の活用についてどこに相談すればよいですか。	• 農政局の相談窓口は地域食品課です。お気軽にお問い合わせください。 • また、専門的知識を有するアドバイザーを紹介できるGIサポートデスク（0120-954-206）もご利用ください。
◆ 輸出にも取り組んでみたいのですが、どこに相談すればよいですか。	• 農林水産物、食品の輸出は年々増加しており、農政局管内でも多くの取組事例があります。これらの事例はホームページで紹介していますので、ぜひ御覧ください。 • 農政局 地域連携課又はジェトロへご相談ください。

管内の事例から

付加価値向上（加工、6次産業化）

- 消費者の嗜好に合わせた多彩な商品開発（鳥取県・鳥取市福部町・らっきょう）
- 健康志向の高まりのなか、様々な加工品を開発（島根県・川本町・エゴマ）
- 農家加工グループによる新商品の開発（島根県・浜田市・黒米、黒大豆）
- 高校、大学とコラボして、商品やレシピを開発（山口県・周南市・じねんじょう）（徳島県・にし阿波地域・そば）
- 地元の料理店に販売促進（広島県・東広島市安芸津町・じゃぼん）
- 製粉したものをパン、スコーン等への利用拡大（愛媛県・東予、中予地方・はだか麦）
- 新たな商品開発のため対面販売によるニーズの把握（岡山県・真庭市・ヤマブドウ）
- 加工品（ワイン）をコンクールに出品し、金賞受賞（岡山県・真庭市・ヤマブドウ）

甘酢漬

しそ風味

ピリ辛風味

たまり風味

消費者の嗜好に合わせた多彩な商品開発

豆腐

かりんとう

こんにゃく

アイスクリーム（試作品）

黒大豆を使用した新商品の開発

パン

スコーン

はだか麦を使用

販路開拓・国内

- 市場ニーズに対応した周年供給（岡山県・倉敷市・連島ごぼう）
- 内部品質、外部品質の基準を定めブランド化（山口県・大島郡・せとみ）
  （「特選」品の設定、糖度13.5度以上、酸度1.35以下の『ゆめほっぺ』）
- 首都圏での販売促進を行い、市場関係者から引き合いが強い（山口県・大島郡・せとみ）
- 外観の高級感や食味を強調した販売（香川県・小原紅早生）
- 販売名称を複数定め差別化（広島県・東広島市安芸津町・じゃぼん）
- レシピの講習会を積極的に開催（鳥取県・鳥取市福部町・らっきょう）
- メディアを活用し、知名度の向上（鳥取県・鳥取市福部町・らっきょう）
- JGAP認証取得により、契約先の要請に対応するとともに、消費者の安全・安心の信頼確保
  （愛媛県・ゼスプリゴールドキウイ）

販路開拓・海外

- 世界へ輸出するため、輸出専用園地を目指す（岡山県・新見市・紅茶）
- 中華圏では春節前にみかんを贈り合う習慣があり、本地域で生産される紅い色のみかんの引き合いが強い
  （香川県・小原紅早生）
- 台湾の高級スーパーでの販売プロモーション（愛媛県・愛南町、宇和島市・河内晩柑）
- 販売先からの要望で中国四国地域で初めてGLOBALG.A.P.を穀物で取得し、輸出用の日本酒醸造に対応
  （岡山県・赤磐市・酒米）

「せとみ」 ゆめほっぺ

漬け物講習会の様子

ブランド化・GAP認証取得

- JGAP認証の取得により、消費者の安全・安心の信頼確保
  （愛媛県・ゼスプリゴールドキウイ）
- 取引先からの要請で中国四国地域で初めてGLOBALG.A.P.を穀物で取得し、輸出を見据えた日本酒醸造に対応（岡山県・赤磐市・酒米）

ゼスプリ・
ゴールドキウイ

酒米（雄町米）

ブランド化地理的表示（GI）保護制度、地域団体商標制度

- 地域で形成してきたブランドの保護
  ・規格を設定し、劣悪品の出回りを抑制
  ・産品の名称（地理的表示）や品質等の基準を登録することで、基準を満たさない産品への名称使用を禁止
- 産地の合意形成を通じて、生産者の意識向上
- GIマークの付与により、ブランド産品となり、販売額向上
- 商標登録を契機に品質統一を一層強化

大山ブロッコリー

（例）地理的表示保護制度

鳥取砂丘らっきょう
ふくべ砂丘らっきょう
連島ごぼう

鳥取砂丘らっきょう
ふくべ砂丘らっきょう

連島ごぼう

（例）地域団体商標制度

大山ブロッコリー（鳥取）
真穴みかん（愛媛）
なると金時（徳島）

栽培地の特徴

- 温泉等の観光地の需要を見極めた生産拡大（島根県・浜田市・黒米、黒大豆）
- 自生していたものを優良選抜,品種登録予定（岡山県・真庭市・ヤマブドウ）
- 優良品種について品質を保つため栽培適地で生産（山口県・大島郡・せとみ）

Ⅵ　機能性等に着目した作物の導入による地域の発展に向けて

➢ 人・農作物・農地・地域が一体となった生産面の総合的な取組を進める

〇優良品種の選抜
〇優良苗木の生産・配布
〇機械の改良・開発

〇研修制度の充実
〇普及組織と連携
〇栽培マニュアル
〇GAPを導入

〇複数作物の組合せによる作付けの周年化
〇中山間地域でも栽培しやすい農産物を選択し休耕田や遊休農地を活用

〇高齢農家の作業を若手農家が受託
〇現場の問題点を改善するための検討会や個別巡回

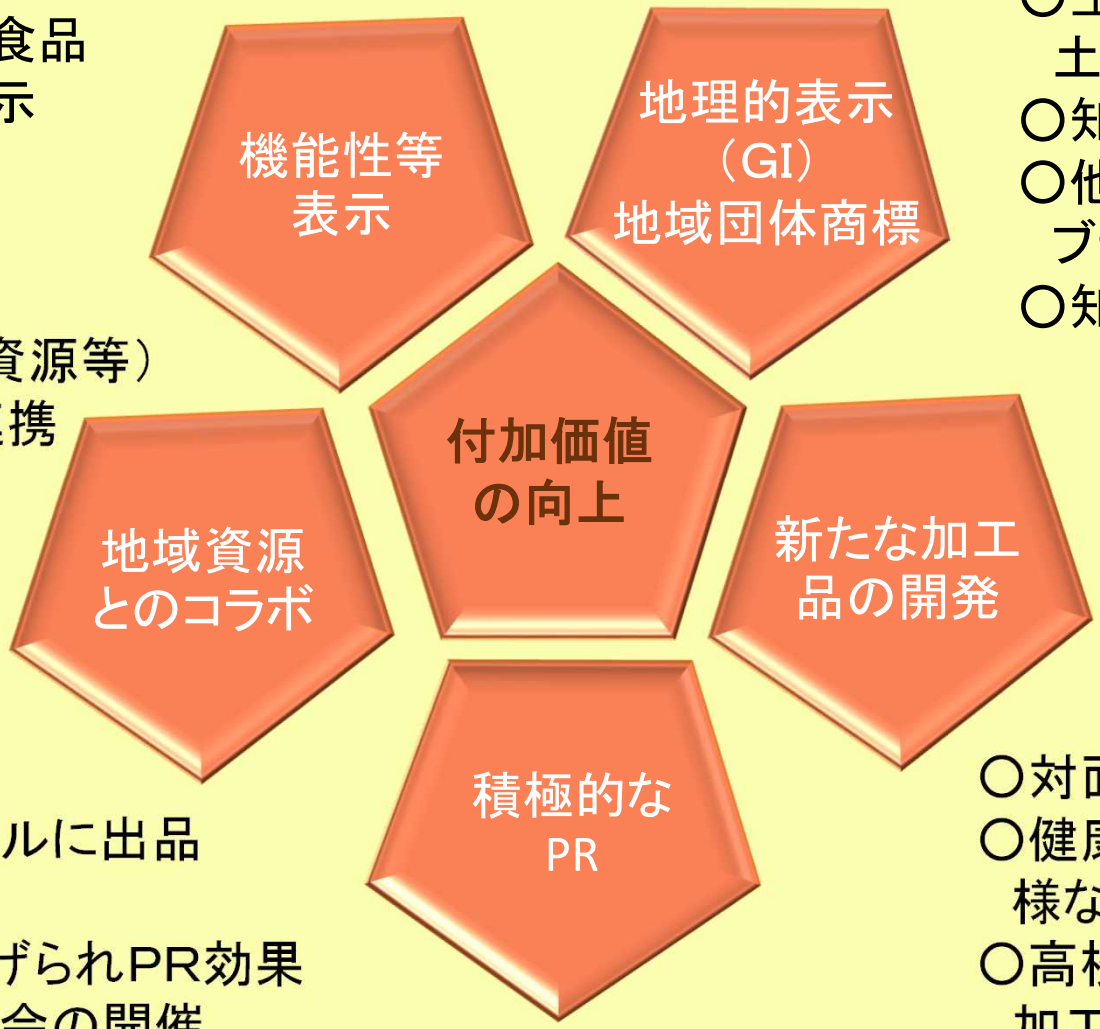
〇中間管理機構の活用
〇耕作放棄地の活用

〇生産者ネットワークや契約農家による生産の全国展開
〇ハウス栽培や儲かる経営モデルによるI・Uターン、研修生等の確保

➢ 更なる付加価値向上に向けて機能性・知的財産・地域資源・商品開発等による更なる発展を目指す

〇機能性表示食品
〇栄養機能表示

〇生産方法、気候・風土・土壌等の生産地の特徴
〇知的財産の保護
〇他地域と差別化し地域ブランド作り
〇知名度の向上



〇地域資源
（自然、特産品、観光資源等）
〇共通イメージによる連携

〇対面販売によるニーズの把握
〇健康志向の高まりに即した多様な加工品の開発
〇高校、大学、企業等と連携した加工品開発

〇加工品をコンクールに出品
〇高品質の保証
〇マスコミに取り上げられPR効果
〇レシピ作成、講習会の開催